

令和3年度 第1回江別市介護保険事業等運営委員会の書面開催の結果

日 時	令和3年7月30日（金）送付
委 員	梶井委員長、黒澤副委員長、堀井委員、山崎委員、山谷委員、松岡委員、谷保委員、表委員、久山委員、中川委員、市川委員、成田委員、中曾委員、森田委員（14名）
報告事項	（1）令和2年度地域包括支援センター運営状況について （2）介護予防・日常生活支援総合事業の実施状況等について （3）地域密着型サービス事業所の指定及び廃止について （4）令和2年度介護サービス利用実績について
意見及び回答	別紙のとおり

令和3年度第1回江別市介護保険事業等運営委員会の書面開催における意見及び回答

No	報告事項	意見（原文のまま掲載）	回 答
1	(1)	<p>様々な活動制限や自粛を余儀なくされているこの間に、コロナウイルスに過剰に反応し、罹患したくない恐怖から必要以上に行動や活動を制限し、健康状況に悪影響を及ぼしている人々を仕事柄見てきました。健康とはどういう状態なのかを考えさせられる期間であったと思います。</p> <p>包括の運営状況を拝見いたしました。各包括の取り組みを見ても苦しい状況がうかがえます。その中でも工夫を凝らして、民生委員との連携や自治会での支えあいの仕組みの構築、通いの場の支援、電話での対応件数upなど、現状で行えることはしていると思われる。</p> <p>しかし、包括でかかわれる範囲は限られる。フレイル予防といっても、市民レベルではわかっているけど、自分レベルでは考えるところまで至っていない感じがあります。気が付いた時には進んでいる状況にならないためにも啓発は大事な要素、今まで以上に発信を工夫を凝らして行ってほしいです。</p> <p>個人的に思うことだが、健康は医者にしてもらうものではなく、自分が管理するものであること。お金の運用と一緒に、健康も自分が運用するものである。生活習慣病は、まず生活習慣を考えることが必要であること。</p> <p>予防の時代に突入し、健康格差を生まないためにも、正しい情報発信を期待しております。</p>	<p>新型コロナウイルスの感染拡大により、高齢者が活動を自粛することでフレイルになる可能性については、市としても危惧しており、地域包括支援センターと協力して対応しているところです。</p> <p>これまで、3回にわたり、市内のリハビリテーション職や口腔・栄養などの専門職と連携し、自宅でできる運動や口腔ケアなどについて記載した高齢者向けのパンフレットを作成・配布したほか、2種類の介護予防体操のDVDを広く希望者に配布するなど、フレイル予防のための情報提供に努めてきました。また、広報えべつ令和3年8月号では、特集記事「フレイル予防で人とつながる健康生活」を掲載し、医師や通いの場で活動する高齢者のインタビューを通してコロナ禍で健康に過ごすためのポイントについて紹介しました。</p> <p>さらに、感染動向やワクチン接種の状況を注視する中で、通いの場の安全な再開に向けて、地域包括支援センターが通いの場実施団体に助言を行っているほか、団体の代表を集めて、安全に通いの場の活動を行うための情報共有や意見交換を行うなど、支援を行っております。</p> <p>今後におきましても、通いの場への支援と合わせて、市民一人ひとりが、フレイル予防に取り組み、自らの健康を守ることができるよう、引き続き情報提供に努めてまいります。</p>
2	(4)	<p>昨年からの新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、訪問リハや介護予防訪問リハなどの利用者が増加し、逆に通所リハなどが減少している。</p> <p>本年度は新たに第8期事業計画がスタートしたところ、相変わらずコロナの終息は来年度も含めて分からない状況が続くと思われる。</p> <p>そこで、令和3年度から同5年度の江別市高齢者総合計画にも少なからず影響してくると思われるので、中間的に計画を検証することも必要でないかと考える。</p>	<p>市は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、高齢者等が家に閉じこもりがちとなり、介護サービスの利用をはじめとして、様々な影響が生じているものと認識しております。</p> <p>このようなことから、ご指摘いただいたように、計画で見込んだ計画値と実績値の乖離等を参考にして、新型コロナウイルス感染症にかかる影響についての検証を行い、随時、課題等を精査していきたいと考えております。</p> <p>今後も、介護サービス事業所や高齢者等に、新型コロナウイルス感染症の拡大防止にかかる周知啓発に努めながら、効果的な計画の推進に努めてまいります。</p>